

臨床推論演習Ⅱ

科目責任者 入 澤 篤 志
学年・学期 4 学年・後期

I. 前 文

本講義は、医学教育モデル・コア・カリキュラムの項目のうち、G-2-13) からG-2-25) までの症候・病態についての臨床推論の技術を学ぶ。すなわち、主訴や現病歴、検査結果などをどのように解釈し、そして問題解決に繋げるかという事を、各項目に関連する国家試験問題を取り上げて、臨床推論の観点からの講義・演習を行う。重要な項目に関しては、複数の講座から講義を行うため、より多角的な考え方を学ぶことができる。

また、本講義においては、一部で基礎医学と臨床医学の統合型講義の形態を導入し、臨床問題解決における基礎医学の重要性についても理解を求めます。今年度は、「G-2-22) 吐血・下血」「G-2-23) 便秘・下痢」「G-2-24) 黄疸」を取り上げている。本講義は、これから始まる臨床実習、更には国家試験対策において極めて有用である。

なお、全講義においてActive learningを取り入れており、取り上げられる症候・病態に関する予習を確実にこなすこと（教科書の総論をしっかりと学ぶ）を求めます。

II. 担当教員

内科学（消化器）	（入 澤 篤 志）
内科学（心臓・血管）	（豊 田 茂）
内科学（呼吸器・アレルギー）	（仁 保 誠 治）
外科学（上部消化管）	（小 嶋 一 幸）
外科学（肝・胆・膵）	（青 木 琢）
心臓・血管外科学	（福 田 宏 嗣）
埼玉医療センター 呼吸器外科	（松 村 輔 二）
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	（春 名 眞 一）
産科婦人科学	（三 橋 暁）
産科婦人科学	（成 瀬 勝 彦）
リハビリテーション科学	（美津島 隆）
病理診断学	（石 田 和 之）
生化学	（杉 本 博 之）
微生物学	（増 田 道 明）
熱帯病寄生虫病室	（川 合 覚）

III. 一般学習目標

重要な症候・病態について臨床推論技術を学ぶ（主訴・現病歴・検査結果などをしっかりと解釈し、問題点の解決に繋げることができる）。

IV. 学修の到達目標

- (1) 臨床実習において広い視野で実習を実践できるように、症候・病態の理解の幅を広げる。
- (2) 一時的な知識・臨床推論技術の獲得ではなく、国家試験にも対応できるようにこれらの能力を保持できるようにする。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))
- 2 : ディスカッション, デイバート
- 3 : グループワーク
- 4 : 実習, フィールドワーク
- 5 : プレゼンテーション

6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	10	2	月	1	G-2-13) 咳・痰 114-A-33, 115-A-19	内科学(呼吸器・アレルギー) 清水 泰 生	1
2		2	月	2	G-2-14) 血痰・咯血 115-A-71, 115-E-37	内科学(呼吸器・アレルギー) 武 政 聡 浩	1
3		2	月	3	G-2-20) 腹痛	内科学(消化器) 郷 田 憲 一	1
4		2	月	4	G-2-19) 嚥下困難・障害 113-F-80~82, 115-E-32, 116-C-69~71	リハビリテーション科学 中 村 智 之	1
5		2	月	5	G-2-17) 動悸 114-D-40, 115-B-27	内科学(心臓・血管) 戸 倉 通 彰	1
6		2	月	6	G-2-16) 胸痛 116-B-38, 116-B-44・45	心臓・血管外科学 小 西 泰 介	1
7		3	火	3	G-2-15) 呼吸困難 114-D-44	埼玉医療センター 呼 吸 器 外 科 松 村 輔 二	1
8		3	火	4	G-2-18) 胸水 113-C-49, 114-D-63	埼玉医療センター 呼 吸 器 外 科 松 村 輔 二	1
9		3	火	5	G-2-21) 悪心・嘔吐 114-A-25, 115-B-44, 116-A-26	生 化 学 伊 藤 雅 彦	1
10		3	火	6	G-2-21) 悪心・嘔吐 114-D-25, 116-A-28	内科学(消化器) 有 阪 高 洋	1
11		4	水	1	G-2-23) 便秘・下痢(統合型講義) 112-F-72~74, 114-D-74, 115-D-24	微 生 物 学 石 川 知 弘	1
12		4	水	2	G-2-23) 便秘・下痢(統合型講義) 112-F-72~74, 114-D-74, 115-D-24	熱帯病寄生虫病室 川 合 寛	1
13		4	水	3	G-2-23) 便秘・下痢(統合型講義) 112-F-72~74, 114-D-74, 115-D-24	内科学(消化器) 富 永 圭 一	1
14		4	水	4	G-2-23) 便秘・下痢 113-A-56, 113-D-28, 116-D-51	内科学(消化器) 渡 邊 菜穂美	1
15		4	水	6	G-2-15) 呼吸困難 115-A-46, 116-A-27, 116-D-19	内科学(呼吸器・アレルギー) 中 村 祐 介	1
16		5	木	1	G-2-22) 吐血・下血(統合型講義) 114-F-69	病 理 診 断 学 石 田 和 之	1
17		5	木	2	G-2-22) 吐血・下血(統合型講義) 111-B-59~61	内科学(消化器) 郷 田 憲 一	1
18		5	木	3	G-2-22) 吐血・下血(統合型講義) 116-A-68	外科学(上部消化管) 中 川 正 敏	1
19		5	木	4	G-2-20) 腹痛 113-A-42, 113-A-53	内科学(消化器) 菅 谷 武 史	1
20		5	木	5	G-2-20) 腹痛 113-E-44・45, 114-C-45, 116-D-20	外科学(上部消化管) 井 原 啓 佑	1
21		5	木	6	G-2-19) 嚥下困難・障害 108-A-56, 109-D-28, 110-D-24	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 後 藤 一 貴	1
22		5	木	7	G-2-16) 胸痛 114-B-32, 114-C-70	日光医療センター 循環器病センター 大 谷 直 由	1
23		6	金	1	G-2-24) 黄疸(統合型講義)	病 理 診 断 学 石 田 和 之	1
24		6	金	2	G-2-24) 黄疸(統合型講義) 113-B-30, 115-B-35	内科学(消化器) 入 澤 篤 志	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
25	10	6	金	3	G-2-24) 黄疸 (統合型講義) 115-B-35, 115-C-66, 115-D-52, 116-F-45	外科学 (肝・胆・膵) 白 木 孝 之	1
26		6	金	4	G-2-25) 腹部膨隆・腫瘍 113-A-16, 113-D-43, 114-D-37	外科学 (肝・胆・膵) 松 本 尊 嗣	1
27		6	金	5	G-2-25) 腹部膨隆・腫瘍 114-A-62, 114-D-16, 115-A-33	産科婦人科学 三 橋 暁	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

定期試験, 受講態度等を総合的に評価する。評価の割合は, 定期試験90%, その他10%とする。
但し, 合格するには定期試験の成績が60点以上であることが必須である。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- (1) 内科学・外科学の一般的教科書 (その中で, 総論として記載されている症候・病態についてしっかりと学ぶ)。
- (2) 医師国家試験問題解説書

VIII. 質問への対応方法

各授業終了後に直接対応。それ以外の場合は教務課を通して質問を受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験問題の解答に関する解説をもってフィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前資料や教科書を基に、テーマとなるコアカリ項目の症候・病態、また取り上げられる国家試験問題に関する事前学習を求める。予習時間は授業ごと1時間は必要。

XII. コアカリ記号・番号

G-2-13) からG-2-25) までの全項目